



関西支部報

<http://www.jackansai.com>

二つの山小屋

金井良碩

私は、高校、大学とクラブ活動は山岳部に所属しましたが、そのいずれの山岳部も山小屋を持つという幸運にめぐまれました。一般的に、山のクラブは自分たちの山小屋を持つことと、海外登山隊を派遣することを夢にしますが、私は、海外登山は選ばれた代表選手のみにも荣誉が与えられるのに対し、山小屋は広く会員たちに利用されるという利点があると思っています。また、一過性の海外登山に比べて、山小屋は長く使われるので、年代を超えた会員同士の交流の場を提供してくれます。しかし、また、長年の使用に耐えるには継続した維持管理が必要で、クラブの強力な組織力が重要となります。ここでは、私が所属するクラブの二つの山小屋と関西支部との縁を紹介してみたいと思います。

大阪府立天王寺高校は、台高山脈の明神平に50名程度収容できるログハウスの山小屋「馬酔木山荘」を持ち、毎年夏に、一年生全員がクラス単位で一泊二日の林間学校を体験する場となっています。この山小屋は、私が高校を卒業した6年後の1970年秋に、山岳部OBたちの手で建設されました。当初は明神平ではなく、明神平に流

れを発する大又川右岸の大又集落から歩いて1時間程度のところに作られ、山岳部OB会が所有、管理してきました。

東吉野村大又の山守、久保清右衛門さんは関西支部所属の日本山岳会会員でもありましたが、山小屋建設に際しては敷地の選定と建設作業の全面的な指導をいただきました。実は1998年の台風でこの小屋は破損しましたが、久保さんが選んだ場所は周りからの倒木による被害こそ受けましたが、山小屋本体は何の損傷もありませんでした。一方、林間学校用に我々の手で増設した離れと便所は土砂崩れで見事に崩壊しました。

その後、当時OB組織の天高山岳会会長であった関西支部の磯部幸則会員が陣頭指揮を取り、山岳部やワンダーフォーゲル部のOBはもとより、同窓会、PTAからの資金と東吉野村から村有地の提供を受けて、現在の明神平に2000年秋に再建を果たしました。これら新旧の小屋の特徴は囲炉裏を切っていることで、使い方になれないと相当に煙いので厄介です。現在では、学校教員と山岳部とワンダーフォーゲル部のOBで構成する「山小屋委員会」で維持管理を担っています。しかし、なにぶん

目次

二つの山小屋	金井良碩	1
平成26年度 新年会報告	長島泰博	3
参加者名簿		3
欠席者からのお便り		3
著者と語る会報告	山田博利	4
参加者		5
関西支部総会のご案内		5
追悼 阪下悦子さん	大津陸郎	6
関西支部と私		6
日本山岳会関西支部の思い出	平林克敏	6
関西支部と私	浅野初子	7
支部山行報告		7
関西支部県境縦走9	辻 和雄	8
関西支部県境縦走10	野口恒雄	8
レスキュー講習(座学)	山内幸子	9
4000山グランプリ	重廣恒夫	10
ゆるやか山行 歴史と文化を訪ねる7		10
関西支部県境縦走11	中川富夫	10
ゆるやか山行 歴史と文化を訪ねる8	村田かおり	11
関西支部県境縦走12	魚津清和	12
陽だまり山行	竹中雅幸	13
山の音楽(1)ヨーロッパ編	浦上芳啓	14
「本山寺山森林づくりの会」作業報告	水谷 透	15
会務報告	秦 康夫	16
第4回委員会議事録		16
第5回委員会議事録		17
支部山行計画 14年4月～6月		18
自然保護行事 14年4月～6月		19
編集後記		20

にも日本一雨の多い土地であるのでログハウスはあまりむかなくて、三重県側からの強い風と雨のためしばしば雨水がログの間から小屋に吹き込んできました。毎年のようにメンテナンスを繰り返してきましたが、埒が明かないので、2013年のゴールデンウィークにヘリコプターで資材を運び上げ、山小屋委員が大工さんともども4日間小屋で暮らして、ログ材の外に板を打ち付けて本格的に止水しました。

この小屋を関西支部は今までに3回利用していますが、その最初は1977(昭和52)年3月でした。今西壽雄関西支部長(当時)はじめ20名ほどが参加し、小屋に一泊して国見山に登りました。残念ながら、支部報への報告は見当たりませんが、私のアルバムには、杖を持った今西さんとそれを見守る久野英一郎さんの姿が見られます。生前、今西さんはこのときのことをよく思い出されて、「あの小屋は煙たかったですな」と笑われていました。2回目は、1990年9月で久保三朗さんをリーダーとした9人で、麦谷から蘆岳、明神平を経て、馬酔木山荘で泊まり、翌日国見山を往復して大又に下っています(支部報58号)。そして、3回目が近畿分水嶺踏査の仕上げとして高見山に登った2012年12月です(支部報150号)。重廣恒夫支部長はじめ13名が一泊した後、後発の9名とともに高見山に登頂して、高見山ふもとの「たかすみ温泉」で近畿分水嶺完全踏査を祝っています。

神戸大学は兵庫県の最高峰氷ノ山の中腹に「千本杉ヒュッテ」を持っています。1961(昭和36)年12月に関宮町から無料貸与された地に、国有林の払い下げを受けた現地の杉を建築材料として建設されたものです。建設に際しては、大学当局と同窓会からの資金、山岳部OBの寄付金、山岳部員の労働奉仕など多くの方々の協力を得ていますが、なかでも、関宮町丹戸の中村健二さんの渾身の活躍があり、製材機で右薬指切断という事故をもとにもせずに、山小屋建設の指揮を取られたと記録されています。建設後は大学へ移管されたため、正式には「神戸大学氷ノ山体育所」と命名されていますが、部員やOBは親しみのある「千本杉ヒュッテ」と呼んでいます。

建設後40年を迎えた2000(平成12)年9月に大改修が実施されました。建築科卒業のOBの指揮の下、ジャッキアップしての根太材の取替え、土間コンクリートの打設、居住スペースの改築に加えて、新たにテラスを増設して一般登山者が利用できるようにしました。さすがに40年も経つと、基礎の上におかれた20センチ角程度の根太は、腐食によって激しいところでは断面積が半分以下にまで

減少していました。なにぶんにもこの地は氷ノ山の中腹で、資材の運搬はすべて人力でまかなう必要があり、大段平駐車場からヒュッテまで、すべて、OBと現役部員によって荷揚げされました。また、このために要した費用はOBの寄付金と一部大学からの補助金が充てられました。

関西支部では、1983(昭和58)年2月にここを利用してあります。このころはまだ車を使う習慣がなく、夜行列車で出かけて、一日ハチ高原でゲレンデスキーを楽しんだ後、氷ノ山に向かっています。金井健二さんをリーダーに11名のパーティーでしたが、まだ氷ノ山国際スキー場が開設されておらず、現在の登降リフトはなかったので、奈良尾からシールで歩き始めています。篠崎仁さんが新品のスキーセットで参加されましたが、ベンディングの閉め具合がゆるくて、たびたびスキーを外すトラブルに悩まされました。一昨年(2012年)10月に千葉県九十九里浜で開催された全国支部懇談会を、千葉支部長として世話された篠崎さんにお会いしましたが、このことを良く覚えておられて、「あれは今でも、赤面の思いですわ」と苦笑いされました。

支部報にこの山行報告はなされてないのですが、このときの大合唱は口伝に、大変楽しい話として関西支部員に知られました。佐野加代子さんの記憶では、いったん寝袋にもぐりこんだ後、誰かが、山の歌を小さい声でハミングしたのを機に、阿部和行さんがいきなり起き出して歌い出したとのこと。私のメモには、ストーブが赤々と燃えるなか、テノールとソプラノの大合唱が始まったと書かれています。阿部さんと久保三朗さんの男性陣、佐野、中谷絹子、三上智津子さんらの女性陣たち中心に、参加者全員で、雪山賛歌、エーデルワイス、いつかある日など、そのころ山でよく口ずさんだ歌の数々を時間が経つのを忘れて歌った記憶が残っています。この夜の間に、雪が深深と吹き積もり、翌朝にはスキーを履いても太腿まで潜る大雪となり、頂上はあきらめて、東尾根を下って丹戸に戻っています。

私が慣れ親しんだ二つの山小屋と関西支部との関わりを思い出すままに書きましたが、ここに登場した多くの方々はずでに他界され、年月の経過を思い知るとともに、惜別の情があらためてこみ上げてきたしだいです。

平成26年度 新年会報告

新年会に参加して

長島泰博

2014年1月29日、「大東洋」にてJAC関西支部の新年会が開催されました。昨年末に入会させていただき初めて参加させていただいた新入会員の眼から簡単な報告をさせていただきます。参加者は会員番号4639の平井一正さん、4675の住吉仙也さんなど総勢48名になりました。毎回顔を合わしている方、久々登場の方、そして初めて参加する方などいろいろな仲間がおり、寒い日にもかかわらず会場に入ると熱気がこもっていました。

司会は村田かおりさん、明るい声で新年会が始まりました。まずは、重廣恒夫支部長の挨拶からスタートです。支部長からは昨年12月7日に開催されたJACの晩餐会の報告、皇太子殿下が臨席されたことや谷垣禎一法務大臣など460人が参加したこと、8月11日を山の日として制定することなどが報告されました。次に80周年記念として遂行されている県境縦走が鳥取県岩美町と兵庫県新温泉町の境界、岩美町長谷の東の555mピーク付近まで進んでおり、2月には日本海に到達する予定であることが報告されました。この縦走は予想外の積雪に難航し、予定通り進まなかったということでした。2015年に迎える関西支部80周年記念式典はいろいろ作業もあるので是非全員で取り組んでほしいと発言され、記念事業のひとつとしてヒマラヤ登山計画の発表がありました。これはネパール・チベット国境上にある未踏峰ナンガ・マリ(6547m)の初登頂を目指すもので、2015年10月～11月の50日間で実施される計画とのことでした。登山隊で8人、トレッキング隊で10人前後が募集人員で登山隊は事前合宿の参加、トレッキング隊は月2～3回程度の登山を継続していることが条件になるとのことでした。

そのあと会員番号7229の小島一喜さんの音頭で乾杯、なごやかに宴会が始まりました。それぞれのテーブルで懐かしい顔、新入会員が混ざりあい、山の話など盛り上がりましたが、ご高齢になられたベテランの方が多いこともあって体調のことが話題となることが多いようでした。それにしても年齢を聞いてびっくりする先輩方の多いのには驚きました。

初参加の会員の紹介があり、引き続き関西支部企画のインドネシア・ロンボク島の最高峰リンジャニ山登頂ツアーの紹介がアルパインツアーサービスの長島さんより



おこなわれました。リンジャニ山は3726mと富士山より少し低い山ですが、広大な草原を登るコースで楽しそうです。日程は5月13日～18日ということでした。

終盤には住吉さんの挨拶があり、「来年は来れるかわからない年寄りに、まだまだ、頑張れるというのは失礼だよ」というような楽しい話もあり、おおいに会場は盛り上がりしました。2時間ほどの楽しい時間を過ごし、8時過ぎ中締めとなりました。関西支部に参加してまだ日が浅いのですが、ヒマラヤからゆるやか登山までの幅の広い活動に会員の方がそれぞれの志向で山を楽しまれていることがわかり、これからの関西支部での活動が楽しみになりました。

新年会参加者名簿

青木 昭 岩崎しのぶ 浦上芳啓 大島義広 大津陸郎
 大塚宏園 大西康郎 斧田一陽 金井健二 金井良碩
 清瀬祐司 久保和恵 桑田 結 小島一喜 小寺佳美
 薦田佳一 鹿田 勝 阪下幸一 重廣恒夫 城 隆嗣
 住吉仙也 高木 稔 竹中雅幸 田島聖子 辻 和雄
 中島 隆 長島泰博 中村久住 西尾俊子 野口恒雄
 野村珠生 平井一正 平林克敏 廣田猛夫 堀江佳市
 前田正彰 松仲史朗 水谷 透 宗實二郎 宗實慶子
 村田かおり 茂木完治 安井康夫 山内幸子 山田博利
 山本光二 山本義博 計47名

欠席者からのお便り

遠隔の地に引っ越ししましたので欠席させていただきます。

赤山伸夫

平成25年9月より北山病院と西陣病院を往復入院中です。長期入院の予定ですので各種行事には不参加となりますので悪しからずご了承ください。皆々様に宜しくお伝えください。

阿部恒夫

祝・新ルーム ここは会員の集まってくる場所。いつも誰かが居る。話が出る。笑い声の満つ明るい部屋だ。備えの地図を見る。計画を立てる。仲間を募ってさあ山へ行こう。出席申込みしていましたが1月26日からクワイ河クルージングに参加することになり、急ぎ取り消し、欠席をお届け致します。勝手ながらの事で申し訳ありません。なにぶん宜しく。盛會を祈っています。

新井 浩

白山を眺めての生活に慣れて久しくなりました。今冬は寒さも厳しく、新雪スキーに恵まれています。所用で新年会に参加できません。皆様によろしく。

井上達男

関連会社の一社が決算期を迎え先生方との打合せ日が重なることから出席できませんが、本年も宜しく願い致します。

魚津清和

1/29は先約(人間ドック)があり参加できません。80周年に向け、素晴らしいスタートの新年会となるよう盛會をお祈りしております。これからもどうぞよろしくお願い致します。

黒岩敦子

明けましておめでとうございます。年齢81才になり、登山というよりは山歩きになってきました。昨年8月、25年ぶりに大雪溪から白馬岳へ登ってきました。今年は台湾の玉山を計画しています。JAC関西にはずっと欠席で申し訳ありません。

黒田守彦

今年もいろいろありました…。来る年は事故なし、皆様

が安全に楽しい登山が出来ますように！我々も頑張ります。

小林 貢

海外出張等が多く、なかなか催等に参加できませんが、本年も宜しく願い致します。新ルームへは一度、顔を出したいと思っています。

仲西輝一

阿部和行さんの訃報、同世代の私にとってはいっそう淋しく悲しい思いです。ご冥福をお祈りします。小生はまあまあというところですが次第に里山歩き程度になってきました。但し「人の知られざる山を」というのが'60~'70年代の山屋の性でしょうか。

野村哲也

腰痛が再発し、二度目の手術をすることになりました。2月の「ゆるやか山行」から山行再開する予定です。

橋本圭之輔

阿部和行様の訃報に関西支部の一つの時代が去ったことを痛感しています。最近の支部報の充実ぶりと読み易さにはほぼ全ての記事を楽しみ読みいただき支部活動に敬服しています。新年会のご盛會をお祈りします。

平野征人

平成25年12月27日付でリタイア。38年10ヶ月の記者・編集者生活にピリオドを打ちました。8年間の東京詰めで途絶えていた山行を再スタート。知的好奇心の塊となって、人生でやり残したことをこれからインテグレートする所存です。

村田悌章

他の行事と重複のため欠席しますが、参加者の皆さまに宜しくお伝え下さい。

山並久次

著者と語る会報告

須磨岡輯氏講演『県境踏査と峠たち』

山田博利

11月16日(土)大阪府立中央図書館において、上記講演が行われた。参加者は40人を超えた。講演者の須磨岡氏は『播磨の峠ものがたり』などの著者である。

氏の講演について報告するために、まず兵庫県(特に播磨国)について述べておこう。

兵庫県の面積は、都道府県で12位の広さである。人口は出入りがあるため10位ぐらいだろう。我が国で都道府県が成立したのは明治初期で、150年ほど経つが、旧の“国”は風土記の頃から見れば、1500年も経つ。兵庫県

は「但馬」「播磨」「淡路」の外に、「摂津」の西半分、「丹波」の西半分で成り立っている。

中国自動車道の播磨国「福崎」は、柳田国男・和辻哲郎・三木清の生まれたところでもある。わずか一里四方内で、日本の三大学者が生まれたのには驚きである。福崎インターに「柳田国男生誕之地」と大きな看板がかかっている。

それにしても「峠」と云う字は、山偏に上と下で出来ている。うまく出来たものだ。山と違って、峠には交流 - 特に文化・風土・民俗の交流が行われている。

須磨岡氏は、播磨の国の峠について映像を用いて報告された。以下重要と思えたものを以下に述べよう。順序は講演とは異なるがご了承のほどを。

白川峠 この峠は、摂津の国と播磨の国の境にある有名な峠である。地図では、垂水区や西区は神戸市の西部であり、摂津の国でなく、播磨の国になっている。

播州峠 丹波・但馬・播磨の三国の境である。近くに三国山(885m)がある。生野銀山も近くにある。日本では金の採掘はきわめて少ないが、銀や銅は多く産出している(だから日本では、バンクは銀行と云う)。この峠は分水嶺でもある。

舟坂峠 現在はトンネル(舟坂トンネル)が出来ている。

戸倉峠 新トンネルが出来て、旧トンネルは閉鎖された。

志引峠 この峠と「さっこり峠」「釜坂峠」「杉坂峠」はすべて岡山県との県界峠である。志引峠は宍粟市であるが、他の三つの峠は佐用町になっている。宍粟市近辺で、宮本武蔵が生まれたと云われている。また、黒田官兵衛(クリスチャンでもある)も播磨の出身である。



註：須磨岡輯著『播磨の峠ものがたり』を、ご一読ください。山書としては数少ない峠に関する山岳書です。

著者と語る会参加者

- 新井 浩 新本政子 井関正裕 魚津清和 浦上芳啓
 大塚宏暎 大塚和子 金井健二 金井良碩 岐部明弘
 清瀬祐司 黒岩敦子 阪下幸一 阪下悦子 高木知子
 辻 和雄 戸島泰三郎 中島 隆 中野峯子
 橋本圭之輔 秦 康夫 松波幹夫 松村文字 宗實二郎
 宗實慶子 茂木完治 森沢義信 山内幸子 山田博利
 横山規江 中谷絹子

会員・会友31名 外13名 計44名



平成26年度
 関西支部総会のご案内

- 日時 平成26年 4月23日(水) 午後6時30分
 場所 ホテルグリーンプラザ大阪
 ANNEX 5階
 ※場所を変更していますのでご注意ください
 議事 ①平成25年度 活動報告、会計報告
 ②平成26年度 活動計画、予算
 ③その他
 懇親会 午後7時30分より 会費5,000円

* 4月16日(水)までに同封のハガキにて出欠をご返事ください。



追悼 阪下悦子さん

大津陸郎(会員番号11111)

とにかく、びっくりしたとしか言いようがない。12月1日の夜、携帯電話に阪下幸一さんからかかってくる「家内が死んだ」と言われた。その上その時の状況を聞いて、びっくりもしたし、なんとも慰めようがなかった。

丹波へ紅葉を見に行き、帰宅してからすごく寒がって、すぐに風呂に入り、そのまま亡くなったという。

阪下悦子さんは、私よりいくつか年下だが、日本山岳会でも、やまゆき会でも、はるかに先輩だ。ただ、日本山岳会では二度しか一緒に山歩きはしていないが、総会や懇親会では話はよくしたものだ。

やまゆき会では、入会当初から阪下さんご夫妻にはお世話になったが、その後、やまゆき会の発展のために協力し合った仲だった。

始めの頃の山行で、私が植物に興味があるというので悦子さんに「この木は何」とテストされた。「アオキ」と答えて無事合格したようだ。その後、珍しい草花などがあると、遠くにいても大きな声で「大津さん、この花は何」と尋ねられることもあった。

当時、やまゆき会は、月に一度会員であれば誰でも出席できる室内例会という会合をもっていた。悦子さんは伝統の良いところは大事にしながらも、合理的な体質に変えたいと考えていたようだ。殊に、総会を納め登山の後で12月の寒い山中で行うのは、ゆっくりと議論もできないし、上意下達に終わりかねない。せめて総会だけでも室内で行うことができなかと提案していた。私もその説に賛同し、会場を探してきた。それ以後は、そのような会合は室内で行うようになっている。

バス山行の時など、悦子さんに請われて、歌集を用意して行って、皆で歌ったことも度々あった。

昨年8月、やまゆき会に大いに貢献のあった先輩が亡くなり、その葬儀に参列した帰りに、駅前の喫茶店で昼食を一緒にしたのが最後になった。その葬儀の終わりに雪山讃歌を皆で歌って柩を見送った。

悦子さんの葬儀でも雪山讃歌を歌うことになり、柩を見送るとき、重廣支部長に背中をおされ、前に出てリードをして歌ったのだが、なにか悦子さんが「大津さん やってよ」と言う声が聞こえるような気がした。

これを書きながらも、全く実感がわかず、今度の会合で会えるような気がしている。

関西支部と私**日本山岳会関西支部の思い出 テンジン・ノルゲイ氏、大阪の一日 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 平林克敏**

1963年秋のサイパル遠征から全員が帰国したのは、1964年正月明けのことだった。津田周二関西支部長、岸田権二先輩とJAC有志の方々とサイパルについて懇談していた折に、2月2日、テンジン・ノルゲイ氏が来日し、7日には関西入りするので案内して欲しいとの依頼があった。

2月7日午後9時、槇有恒さんがテンジン氏を伴って第2こだま号で関西入りされた。住吉仙也さんと梶本徳次郎さんと私がホームに出迎えた。駅出口にも多数の会員が出迎えた。その日は新大阪ホテルに宿泊された。

翌日、毎日新聞社訪問のあと、森永乳業塚口工場、宝塚劇場、ダイハツ工業を回り、最後にナショナル電化センターを訪問した。その後、関西支部主催の歓迎会が料亭本青庵で開かれ、50数名が集まり、盛況であった。

この大阪訪問の中で、特に私が印象に残っている一つ

は、宝塚劇場を訪問した時のことであった。宝塚劇場の方に案内され中央の席に座った。歌劇が始まってからしばらくの間は席におられた槇さんは、大変ご機嫌が悪く蒼惶として席を立ち場外の廊下のソファールにおられ、性に合わないのかご不満の様子であった。住吉さんは写真を撮りながら、槇さんと同じソファールで寛いだり、歌劇を撮影したりしていた。私は、テンジン氏の横で、拙い通訳に戸惑いながら座っていた。

ショーが終わり、宝塚劇場の担当の方に誘われ、楽屋に行くとタイト姿の美女達がステージ衣装のままテンジンを取り囲み、記念撮影をした。20数余の美女たちに囲まれテンジンさんが一人中央に入り、私達に入れ、入れと言うけれども、私達は写真を撮る人の後ろに控えていた。その時のテンジンさんの照れ臭そうな顔とご満悦の様子は、未だ私の記憶に新しい。

支部山行報告

支部山行13-22 関西支部県境縦走9
大通峠～三室山～波左利山～戸倉峠

辻 和雄

9月22日(日)晴

前日は、須磨岡さんの計らいにより板馬見溪谷の入口にある後山の「修験荘」に宿泊する。

早朝、須磨岡車と稲葉車に分乗して大通峠に到着。空が明け始めた中を出発する。辺りはブナの森となっている。三室山の前後の稜線は、JAC90周年記念の中央分水嶺踏査時には藪がひどかったそうだが、ササ枯れが進み快調に進む。三室山が近づくとシダが現れ、山頂直下では背丈ほどのササが現れだすがひどい藪ではない。

三室山頂(1357.98m 宍粟50山)は見晴らしが良く、二等三角点がある。藪がほとんど無かったため予定時間より2時間早い到着となる。三室山を過ぎてもササ枯れは続き、濃密なヤブは現れない。地元の高科さんが、この辺りは兵庫県でも最も山深い所で、地元の皆さんもめったに通らないと話された。切り開かれた稜線を進み赤西の頭(1202m)を過ぎる。更に疎林を進み波佐利山(1191.6m 三等三角点 宍粟50山)に到着する。一部伐採されているが見晴らしはもう一つである。

ここから今日の幕営地まで尾根を下る。途中、揖保川・赤西川の源流の碑を通り、森林鉄道の跡が残る道に沿い赤西川の二股に到着。今回参加いただいた宍粟50山ガイドの八木、山内、高科さんとはここでお別れとなる。

9月23日(月)晴

5時30分に二股の幕営地を出発し、昨日の下山路を登り返す。途中馬の顔に似た枯木のモニュメントなどに心を和ませながら、昨日の県境離脱点・波佐利山まで戻る。

新たに縦走を始めると1166m地点からの下りで初めて手応えのある笹藪が現れる。暫く藪と格闘し、尾根道を行くと、杉やブナの巨木が目につくようになる。圧巻は、幹周りが7人でやっと抱えられる杉の巨木(推定幹周10.5m)で、合体木であるが、地表部分には大人1人が入れる空洞がある。この自然の素晴らしさに感嘆しつつ尾根道に行く。戸倉スキー場との分岐を過ぎ、加藤文太郎が登ったという赤谷山(1216.4m 二等三角点 宍粟50山)に到着する。頂上は笹藪が切り開かれ、広く見晴らしが良い。これから行く氷ノ山が良く見える。赤谷山からは登山道となり戸倉峠まで1時間で下った。



赤谷山の手前、杉の巨木の前で 写真提供：重廣恒夫

今回は、天気恵まれ予想以上に笹藪が少なく、当初計画より前進できた。来月はいよいよ氷ノ山となる。

【コースタイム】

22日 大通峠05:50—06:57P 1145—08:00三室山—10:48赤西の頭—12:34波佐利山—14:24二俣テント場

23日 二俣テント場05:30—06:20源流の碑—07:30波佐利山07:51—09:14P 1087—10:24合体杉—11:11赤谷山—12:36戸倉峠

【参加者】

重廣恒夫 山内幸子 黒田記代 宗實二郎 辻和雄
(会員外)稲葉淳一 (サポート)須磨岡輯

22日のみ(会員外) 八木偉行 山内公一 高科博幸

22日計9名

23日のみ新本政子

23日計7名

支部山行13-24 関西支部県境縦走10
戸倉峠～氷ノ山～小陣鉢山

野口恒雄

10月18日(金)晴のち雨

戸倉峠で前泊し、夜明けと共に行動開始。二の丸とも呼ばれるP1182まではヤブも薄く、予定より大幅に早く到達。しかし、いつまでもそんな状態は続かず、背丈を越える濃密なネマガリタケの藪に突入。両手を使って掻き分け、足で戻ってくるのを押さえる全身運動だ。横着して体を突っ込むと動きが取れなくなる。すぐ前に行く仲間を見失い、声を掛けながら前進する。このひどいやぶ漕ぎも傾斜が緩いのが救いであった。もう藪漕ぎは十分と飽きてきたところで登山道に出た。三の丸の東屋で遅い昼食。前半が順調だったこともあったので氷ノ山越での宿泊に変更。三の丸で宍粟の助っ人下山。登山道を行くも霞んでいて展望はもう一つ。雲量も多くなり氷ノ山山頂では風も出てきて少し寒くなる。氷ノ山越の避難小屋に到着すると雨が降りだした。夕刻、地元の登山者1名が避難小屋に泊まりにこられた。

10月19日(土)雨のち曇

小雨が降る中を出発。鉢伏へのぶん回しコースを少し登ったところで準備体操する。その間に雨は上がる。さて今日も藪に突入。北側の稜線から赤倉山のピークに立つ。アンザイレシ、タイトロープで県境尾根を桑ヶ峠に下る。今回の山行も終了と思ったが、大休止のあと縦走を続けることになった。こちらの藪は、まばらなので難儀でない。桑ヶ峠の三角点は刈った笹に埋もれていた。小さな上り下りを繰り返す県境尾根のすぐ左下には東因幡林道が走っている。陣鉢山への尾根を分けて一登りした小陣鉢山で縦走終了となった。桑ヶ峠へは林道で戻ったが、登り基調なのでくたびれた。

【コースタイム】

18日 戸倉峠05:45—06:42P1073—07:55二の丸08:10—12:45三ノ丸東屋13:20—13:30三ノ丸—14:25氷ノ山14:40—15:32氷ノ山越避難小屋

19日 氷ノ山越避難小屋06:10—07:00赤倉山—10:00桑ヶ



三の丸にて 写真提供：重廣恒夫

峠10:40—11:10桑ヶ峠11:20—13:40小陣鉢山13:55—14:04北側鞍部—14:20東因幡林道—15:35桑ヶ峠

【参加者】

重廣恒夫 山内幸子 清瀬祐司 辻和雄 野口恒雄 宗實二郎 (会友) 上村規子 (会員外) 稲葉淳一 (サポート) 須磨岡輯

18日のみ(会員外) 山内公一 高科博幸

18日計10名 19日計8名

**支部山行13-25
レスキュー講習(座学)**

山内幸子

10月20日(日) 9:00~11:30

生憎の雨のために現地での講習会は止めて新ルームで座学講習会に変更になり9時から11時半までおこなわれた。講師を含めて参加者6名で和気あいあいとみっちり学習できたように思う。

レジュメに沿って悪路・難路・岩場の歩き方の説明、覚えておくと便利な結び方、けが人の移動・運び方について実習を交えて講習する。

結び方の基本シートメントやクロブヒッチ、ハーフクロブヒッチなど実際にロープを使い個人指導で行われた。プルージックの方法やつなぎ方、輪の作り方、エイトノットなども何度も繰り返し納得するまでやっていた。

その後、けが人の搬送について直接運ぶドラッグ法、実際にザックや雨具、衣服、ストックを使う背負い搬送法、タンカ搬送を実際にやってみた。多くの人がいればできるヒューマンチェーン法も試みた。最後に簡易ハーネスの作り方を教えてもらい講習を終えた。

いつも思うことだが講習している時は何とかできても実際山でうまく使えるかどうか疑問に思う。いざという時、「〇〇をして」と言われても先に「あれ、どうするのか?」と思ってしまいオタオタして何もできなくなる。実際に事故があった時うまく使えるのか自信がもてない。皆さんはどうなのでしょう。こういう機会を利用して何度でも繰り返し体が覚えるまで学習する必要があると思って参加しているが、参加者が少ないので熱心に教えて下さる講師に申し訳なく思っている。

【参加者】

講師：山本一夫

青木昭 魚津清和 秦康夫 久保和恵 山内幸子

計5名

支部山行13-11 4000山グランプリ
仙千代ヶ峰

重廣恒夫

11月9日(土)晴

JR三瀬谷駅からジャンボタクシーに乗り込み野又橋に向かう。途中、支所に寄って大杉からの町営バスの運行状況を確認する。野又橋を渡ったところでタクシーを降り、民家の裏手から登山道に入る。右手には鹿避けのネットが張られており、所々シダが覆いかぶさっている急登に、11月だというのに汗が噴出す。時折、右手の樹間からこれから向かう仙千代ヶ峰の稜線が見え隠れする。P619の手前で昼食を摂り、古道分岐から野又高に向かう。小さな岩稜と急登を繰り返して辿りついた稜線上に野又高の三角点があった。ここから稜線を南西に向かうが、高低さも少なく長閑な稜線歩きは左手に熊野灘を垣間見ながら野又高南峰を経て野又峠まで続いた。

野又峠で仙千代ヶ峰から千丈山に続く稜線を俯瞰した後頂上へと向かう。疎らな樹木の踏み跡は不明瞭ではあるが、明るい斜面なので特に問題はない。830mの等高線を過ぎると稜線は90度右へ曲がり、頂上に向かって西に縦走路を辿ることになる。荷物を軽くするために頂上近くで取水することになっていたが、P822を越えた地点で我慢できなくなって野又谷に向かった沢筋を下るが、岩の多い地形とあってなかなか流水地にでない。30分ほど下って右手の沢筋からの豊富な流水に辿りつくことができた。往復1時間標高差170mの取水は手前のコルから下ればもっと楽だったようであるが後の祭りである。暗くなり始めた880m地点で南に下る道形を見る。予定ではここから右手の斜面を下って取水する予定であったが、山抜けで無残な崩落面となっていた。早めの水汲みが功を奏したようである。暗くなったのでヘッドランプを点けて最後の200mを登りきったところに頂上があった(二等三角点は根元から折れていたが、通常は判らない)。

11月10日(日)晴

昨夜、テントを張った時にばらついていた雨もすぐに止み、夜半木々を揺らした風も収まって平穏な朝を迎えた。予定では頂上から水呑峠に下り、大河内山を往復して倉元橋から大杉バス停に下る予定であったが、悪天を予想して行程を変更、千丈山から小森山を経由して大杉バス停に下ることにした。暗いうちからの歩行であるが、途中朝焼けの空をみながら倉元橋分岐までは快適に下降する。分岐からは登りとなるが踏み跡も明瞭で千丈

山(1042m)に到着する。いくつもの山名プレートがぶら下がっていたが展望のない頂である。

千丈山からすぐの植林地は急降下であったが、その後は単調な縦走路となり最後ひと登りして小森山に到着した。ここも展望の少ない山であるが、それでも南東方向に意外と立派な千丈山の頂を見ることができる。小森山からはケーブルテレビの配線支柱を追い下降、途中から稜線を外れた道に入りプール脇の登山口に降り立った。ここから舗装道路を辿り大杉バス停に到着した。バス発車の2分前であった。次のバスは12時なので、ヤレヤレである。雨模様の奥伊勢フォレストピアでは「どんとこい大台祭り」がおこなわれていた。

【コースタイム】

9日 野又橋登山口11:16—11:57昼食地点12:20—12:52
P61913:05—13:35野又高13:41—13:56野又高南峰13:58—
14:16野又峠14:25—14:58東尾根取付15:50—15:30取水下
降点16:35—17:50仙千代ヶ峰

10日 仙千代ヶ峰05:29—06:08倉元橋分岐06:17—06:45千
丈山07:00—07:58小森山08:10—09:10大杉バス停

【参加者】

重廣恒夫 新本政子 秋枝秀實 村田かおり 松仲史朗
計5名

支部山行13-28 ゆるやか山行【里山探訪】
歴史と文化を訪ねる7
高取山

中川富夫

11月14日(木)

本日の奈良は最低気温3度と予想されているも穏やかな陽射しに恵まれ、正に小春日和で最高の里山探訪に期待大、胸ふくらむ。

札の辻にて恒例のストレッチを前に故阿部和行前支部長に黙祷を捧げる。ストレッチはお馴染みの“体操おねーさん”がお休みで“久保おねーさん”が担当。

石畳の城下町を歩く。土佐街道には立派な長屋門を構える家老屋敷、ご典医だった門構えの医院、漢方薬の看板を吊るした薬商(高取町と薬とのつながり古く万葉の昔にさかのぼる)等格子窓のある旧家が残っている。

土佐は土佐・高知の土佐で大和朝廷の都造りに駆り出された土佐の人が政変で故郷に帰れず住み着いたと云われている。

街道は石畳の敷かれた通りから一ノ門跡を過ぎ更に上ると藩主植村氏の菩提寺である宗泉寺参道分岐に着く。



高取城跡の美しい石垣 写真提供：久保和恵

ここで高取城の歴史等解説を森沢義信先輩から拝聴する。

これより山道になり七曲がりのジグザグ道の急な上りがつづく。やがて明日香・栢森(かやのもり)分岐に着く。猿石が鎮座している。眼鼻が丸く形製されてユニークな風貌である。この先一升坂の上りがつづく、二の門跡そして三の丸跡に着く。石垣を眼に右折れ繰り返し坂道を上りつめると高取城本丸跡に着く。

高取城は南北朝時代に土豪越智氏が築城、典型的な山城で三大山城(奈良高取、美濃岩村、備中松山)の中で高取城が一番比高(麓から本丸までの高低差)が大きく、難攻不落と云える。時に城郭約30kmと広大である。ここからは南の視界が開けており、吉野・大峰の山々が一望できる。素晴らしいロケーションの中で昼食。下山にあたり三等三角点(583.6m)にて記念撮影。

下りは五百羅漢、西国観音霊場の壺坂寺を経てのコース。40分程下ると石仏群に出会う、五百羅漢は像高50cm余りでやや斜め前方をみているように彫られている。先人のゆるがぬ信仰心に思わず合掌。しばらく歩くと林道に出る。そして立派な屋根と観音様の後姿が見えてくる。壺坂寺である。壺坂霊驗記「妻は夫をいたわりつ、夫は妻を慕いつつ…」の名文句をメンバーの一人が口にされ共感。歳が……。拝観は時間の都合にて割愛し一路壺阪山駅に向かう。

帰りの街道で柚子、柿、野菜の買い物を手に近鉄壺阪山駅に着く。

【コースタイム】

近鉄壺阪山駅10:13—10:38札の辻[高取児童公園]10:46—11:12砂防公園11:17—11:30宗泉寺参道11:35—12:10猿石12:15—12:45高取城跡(昼食)13:17—13:20高取山三等三角点13:28—14:10五百羅漢14:15—14:45壺坂寺14:50—15:30札の辻15:50—16:20近鉄壺阪山駅

【参加者】

久保和恵 岩崎しのぶ 内田昌子 浦上芳啓 阪下幸一
戸島泰三郎 野村哲夫 松波幹夫 森沢義信 (会友)岐
部明弘 小林三喜男 中川富夫 中野峯子 横山規江
(会員外)浅田博三 田中アキエ 計16名

支部山行13-29 関西支部県境縦走11

桑ヶ峠～青ヶ丸～扇ノ山～水とのふれあい広場

村田かおり

11月23日(土)曇時々晴

雪がうっすらと積もる桑ヶ峠を出発。遠くで我々を見送るようにアカショウビンが鳴いている。気温は3℃。晩秋の冷気を肌を感じながらのスタートである。東因幡林道から約40分で小陣鉢山到着、次いで10月度の県境離脱点へと順調に歩を進める。ここからは痩せ尾根を慎重に枝を掴みながらの軽い藪漕ぎが始まる。図根点を経てP1040までは10分程度で着。遥かに青ヶ丸を確認しながらの小休止となる。足元にイワウチワの葉が多く見られる。春先は花の道であろう尾根筋は笹藪が胸にまで達する箇所もあるものの比較的歩きやすい。可憐な花を思い浮かべ歩いていると、途中熊の爪痕を確認。奥深い山中にその身があることを今更ながら意識する。順調に「悪谷の頭」到着。これ以降はブナの木が目立って増え始める。大木のブナに魅了されながら歩いているとブナと杉のカップルを発見。抱き合うような佇まいが何とも言えず微笑ましい。ひとときの安らぎも束の間、徐々に藪が濃くなる。藪を遣り過ごしP1047から西ミツガ谷までは歩きやすいブナ林が続き、P1136を経て足元は笹が刈られた登山道へと趣を変える。足首程度の笹に足を取られながら慎重に歩いていると前方で「おお！」との声。若桜の山ボーイ盛田さんである。そろそろこの辺りであろうと会いにいらしてくださった。しばしの歓談・記念撮影の後、盛田さんと別れ青ヶ丸に向けて歩を進めるが残雪と刈られた竹で幾度となく躓き思うように進まない。これまで約1時間は先行していたコースタイムも徐々に遅れだしていく。3時前に青ヶ丸着。三角点周辺は綺麗に笹が刈りはらわれているが、それ以外は背丈ほどの深い藪である。積雪時には見られる眺望も藪で見ることが出来なかった。ここからテントサイト予定の中ノ丸東までは更に藪が続き、取水をしてテントに入る。日も落ち満天の星の下での宴会となった。

11月24日(日)曇後晴

思いの外暖かい朝を迎える。本日はいきなり藪漕ぎから開始。20分程で藪を抜け、県境復帰点からシブキ山を

目指す。藪また藪の格闘である。背丈を越す深い藪が第1屈曲点～第3屈曲点まで絶え間なく続いた。シブキ山は藪の中のピークでプレートはなく、ブナの木に「シブキ山」と彫られているのみで見逃しやすい場所である。これよりまた深い藪の連続であったが、約30分で諸鹿越に出た。暖かい日差しを受け林道で小休止の後、諸鹿コース登山口より扇ノ山を目指す。10分ほど経過すると扇ノ山が見えて来た。整備された登山道で歩きやすいが階段が続き疲労が増す。登る程に10cm程の積雪へと変わり他の登山客も増え始めた。扇ノ山山頂で昼休憩を取り、昨日見られなかった眺望を思う存分堪能する。遥かに氷ノ山、陣鉢山、青ヶ丸に加え那岐山が確認できる。十分な休憩を取り大ヅッコに向けてスタート。上地コース分岐で迎えに来られた山陰支部の森田さんと合流。大ヅッコを越え、小ヅッコに向かう頃には一面圧巻のブナ林となる。四方に広がるブナの景色を楽しみながら順調にコースを進み1時間程で水とのふれあい広場に無事到着。県境離脱点にて記念撮影の後、森田さんのご厚意により栃本まで送っていただき帰路についた。

【コースタイム】

23日 桑ヶ峠07:01—09:10前月県境離脱点—10:38悪谷の頭10:48—12:37西ミツガ谷12:47—14:46青ヶ丸15:00—17:49テント地

24日 テント地05:30—05:56P1144—09:27シブキ山09:37



ヤブの痩せ尾根を行く 写真提供：重廣恒夫

—10:03諸鹿越—11:53県境離脱点—12:08扇ノ山12:40—13:11大ヅッコ—13:38小ヅッコ—14:04県境離脱点・水とのふれあい広場

【参加者】

重廣恒夫 山内幸子 野口恒雄 黒田記代 松仲史郎
村田かおり 計6名

支部山行13-30 ゆるやか山行【里山探訪】

歴史と文化を訪ねる8

播磨・高御位山

魚津清和

12月5日(木)晴

冬型の気圧配置も緩み穏やかな小春日和に恵まれての山行となる。JR山陽線曾根駅に集合して目指す播磨アルプス縦走路豆崎登山口に向かう。登山口は民家と駐車場の間の狭い進入口。駐車場でレジメと準備体操後、この登山口から北に登り始めるが行き成り露岩帯の急登が待ち構え落葉が岩肌を覆っている事から踏み足をしっかり確認しながら注意深く進む。暫らくして経塚山古墳に着く。開口部が露出している状態を見るが詳細不明。更に北上し豆崎奥山155.7m(三等△・点名大谷)に着く。北東方向に主峰高御位山や東に北山尾根がはっきり見て取れる。展望は明るく稜線散歩のつもりでいたが露岩帯の急降下と登り返しがなかなか手強い。少雨でも中止の案内の意味が理解できる。注意の声も飛ぶ。地徳山頂(194m)を過ぎると次の鞍部88mまで標高差106mの急降下を過ぎて登り返しは平均斜度30度の百間岩が大きな壁のように目前に待ち構えている。

ここでトイレ休憩の合間、振り返って後方(南)通り過ぎてきた地徳山がいやに高く感じられてとても低山とは思えない山容を感じる。休憩後は一気に百間岩を登り切り送電線鉄塔地点(近くに反射板)で昼食。昼食後は鷹ノ巣山から高御位山へ北東方向から東に伸びる稜線を辿る。鷹ノ巣山264.2m(四等△・点名地徳)通過暫らくして馬の背を南側に見ながら東の高御位山に向かって明瞭な岩稜尾根を辿る。桶居山分岐を通過するとこの辺りは山火事の跡らしく樹木の黒く焼き焦がれた痕を見かける。高御位山手前で一旦小休止して一気に高御位山山頂を目指し山頂手前の反射板を横切って最高峰304mに到着。絶壁の大展望を確認し少し下がった境内で軒下の片隅に三等△(299.8m)の標石を見つける。記念撮影後は下山ルートを鹿島神社組と南に尾根沿いに進む組とに分かれ、尾根沿いルートは北池登山口に下山して播磨アル



百間岩(平均斜度30度) 写真提供:中島 隆

プス縦走を無事完走する。国道2号線沿いを西に、途中鹿島神社下山組と合流してJR山陽線曾根駅にて解散。

【コースタイム】

JR山陽線曾根駅9:35—9:53豆崎登山口—10:10経塚山古墳—10:26豆崎奥山—10:58地徳山—11:13鞍部—11:27百間岩—11:43鉄塔下(昼食)12:10—12:37鷹ノ巣山—13:38高御位山14:03—14:53休憩(ルート分け)15:08—15:13鉄塔(鹿島神社組と分かれる)—15:47北池登山口—16:17JR山陽線曾根駅

【参加者】

久保和恵 山内幸子 魚津清和 清瀬祐司 河野直子
戸島泰三郎 中島隆 中谷絹子 平井一正 宗實慶子
(会友)岐部明弘 黒岩敦子 小林三喜男 中田栄 横山
規江 (会員外)井上直美 田中アキエ 計17名

支部山行13-32 関西支部県境縦走12

水とのふれあい広場～牛ヶ峰山～蒲生峠

竹中雅幸

12月22日(日)雪

郡家駅近くののぶ旅館に全員集合し、湿っぽい雪の降る中タクシーにて雨滝へ。集落を過ぎると道路に雪が増し、最後の民家を過ぎると完全な雪道となる。わだちはあったが、荷物を満載したタクシーはちょっとした坂を乗り越えることができず、滝の約1.5km手前より歩行開始。

最初は順調にわだちにそって進む。「日本の滝百選」にも選ばれているという雨滝は冬でも豊富な水量を誇っていた。橋を渡って右岸の中国自然歩道へとりつき、標高差約400m上の林道を目指す。自然歩道という語感とはうらはらに、ちょっとした鎖場や、上からの雪に覆われてどこまでが地面かよくわからない斜面もあり、雪山らしい緊張感を味わう。雨滝上流の沢に出会い、これを

渡渉して左岸へ移り、すぐに第二の渡渉点へ。小さな滝を巻いて、滝上を渡るのがルートだが、滝の巻きが崩れておりロープを出す。再び右岸に戻った後は、急坂のラッセルで尾根へ出る。ここでワカンをつけ、自然歩道から離れてショートカットで林道を目指す。

緩やかな尾根を3時間弱で林道へ合流。時刻は12時を過ぎ、計画ではもう「水とのふれあい広場」へ到着している時間だったが、ここからが長かった。雪がたっぷり積もった林道を交代でラッセル。ときおり見える周囲の山々や、道路わきの小さな雪庇が美しい。前回到達地点の「水とのふれあい広場」へは3時間ほど要した。県境の兵庫側で幕営。水はおいしい湧き水を汲むことができた。

12月23日(月)曇

ようやく県境縦走が始まった。最初からワカンを履いて出発。すっかり雪原となった河合谷放牧場の東端を天神池まで下り、登り返して稜線をたどる。東側が急斜面、西側が緩斜面となっているので尾根はわかりやすい。東尾738.9mにて記念撮影。三角点は雪に埋もれていて見つけられず。

鳥越分岐まで下っていくと、まさに牛の頭のような、あるいは寝そべった牛のような姿をした牛ヶ峰山が聳えているのが樹林の合間に見える。林道らしきものがあがってきている分岐にて大休止をとり、次のコブは西側から巻いて、再び主稜線へ。牛ヶ峰山の前後は西側の集落がよく見渡せた。山頂でピッケルをあちこち差し込んでみると、見事三角点にヒットし、標柱を掘り出すことに成功する。

牛ヶ峰山からの下り、県境はいったん浅い谷状地形に入ってから再び尾根へ復帰しているが、ここは歩きやすく道のわかりやすい東側の尾根を歩く。だんだんと雪が少なくなり笹が茂るようになってくる中、黒田さんが笹の跳ね返りで目を負傷した。上村さんの手際の良い手当てで大事には至らなかったが、藪山の怖さを思い知らされる出来事であった。なお歩みを進め、P690から下りきるといったん林道に合流するが、蒲生峠までのわずかな距離も県境をたどるべく再び藪へ突入。最後は藪をたよりに法面の際をすべりおり、蒲生峠に到達して今回の県境縦走を終えた。

【コースタイム】

22日 歩行開始06:58—08:00雨滝—09:33第2渡渉点—12:16林道合流点—15:00水とのふれあい広場—15:18県境復帰点—15:27テントサイト

23日 テントサイト06:12—09:19△東尾—10:20鳥越分岐



やっと県境のカーブミラーへ 写真提供：重廣恒夫

—12:29牛ヶ峰山—14:07林道合流点—15:09蒲生峠

【参加者】

重廣恒夫 黒田記代 辻和雄 上村規子 竹中雅幸

計5名

**支部山行13-33 陽だまり山行
馬山(174.1m)**

浦上芳啓

1月5日(日)晴

新年にふさわしく冷たい風が頬をなぜるも、小春日和を思わず陽射しを受けて姫新線の太市駅に。新年の挨拶、駅前広場で体をほぐし左折して出発。集落の狭い道から農地の畦道を繋ぎ、回り込んだ人目にも付きにくいところに、西脇廃寺の礎石(約3屯前後)が鎮座していた。地元の方が顔をだし「私らの子供のころは、大きな杉の木と百日紅の大木があったが切り払われて」と話してくださいました。名残りの百日紅が根元から枝をだし、ほうき状に背丈ほどに伸びた小枝が2~3m程の輪に密集し、面影を残していた。元の道に戻り左折して進み旧山陽道交差点、邑智(太市)馬家跡に着く。右奥の住宅前に、「古代10世紀に編纂された『延喜式』の巻二十八兵部省に記載されている馬屋は播磨では9駅で、そのうち山陽道沿いの7駅の中の1つがこの邑智(太市)の駅家であり、員数は20匹と定められている等々」を標した石碑が建つ。歴史の重みを感じつつ右折して竹林の山裾の旧山陽道を進み、竹林の切れ目から左折して野良道に、農業用水池の土手道を右手から迂回して竹林に。この地はタケノコの産地としても有名で、整備の行き届いた竹林から山に入る。緩い登りから小さな尾根らしきで右折して登り、鉄塔で開けた山麓に出て、再度右側の藪山に取り付く。あまり人は入らないのか、道が有るような無いような低木雑木林で半分藪漕ぎの道。小さなアップダウンを繰り返す目的の山、馬山(174.1m)に着く。低山なれど視界

良好、冬日を受けて輝く播磨灘、家島群島に続く島々が一望、取り巻く田園風景も重ねた絶景を満喫しつつ昼食タイムに。午後のはじめは直進して急斜を下り、村はずれの静かなたたずまいの氏神さん「若王子神社」に無時下山。ここでも苔むした屋根瓦に歴史の重みを感じた。鳥居をくぐり石段を下りて左折し、山裾と田園の間の細道をたどり姫路バイパス道を潜り抜けて農業道から車道に出て桜山公園に着く。公園の芝に腰を下ろし須磨岡リーダー心尽くしのお神酒が振舞われる。皆さん共々に改めて新年の気分になり、和やかな時間を過ごす。一日を通して陽射しは絶えず、寒風に吹かれながら車道を経て太市駅に着く。須磨岡リーダー、お世話になりました、御馳走様でした。皆さんお疲れ様でした。

【コースタイム】

JR太市駅10:07—10:31専光寺前—10:41西脇廃寺跡—10:51太市群家跡—12:05馬山12:48—13:11若王子神社—14:01桜山公園15:12—15:52JR太市駅

【参加者】

須磨岡輯 山内幸子 新井浩 井関正裕 岩崎しのぶ 魚津清和 浦上芳啓 大塚宏暎 大塚和子 金井健二 金井良碩 久保和恵 阪下幸一 辻和雄 戸島泰三郎 中島隆 中谷絹子 前田正彰 水谷透 宗実二郎 森沢義信 (会友)青木昭 岐部明弘 中野峰子 (会員外)新井幹子 小林優子 石部正子 計27名



「馬山」頂上にて 写真提供：中島隆

◆支部報153号 訂正とお詫び

頁	行目	誤	正
目次	後から10	秦 泰夫	秦 康夫
6頁	右列16	…新しい開放に…	…新しい会報に…
14頁	右列見出し	秦 泰夫	秦 康夫

山の音楽(1)ヨーロッパ編

水谷 透

♪あ～たまをく～も～の う～えにだし～

富士山が世界遺産に登録されました。富士山の歌と言えば、ほとんどの人がこの歌を思い出すことでしょう。日本人が生まれて最初に出会う山の音楽は、小学校で習うこの「ふじの山」かも知れません。しかし一般によく知られているのは、「雪山讃歌」や「アルプス一万尺」でしょう。世界を見渡せば、世界初のCMソングである「フニクリ・フニクラ」かも知れません。しかしここでは山をテーマにした、いわゆるクラシック音楽について述べます（以下断定的な書き方をしますが、あくまでも私の知る範囲でとご承知おきください）。

もっとも有名なのはリヒャルト・シュトラウス（ドイツ1864-1949）の「アルプス交響曲」だろう。ドイツ最高峰のツークシュピッツェ(2962m)登山の体験をもとに作曲され、曲は夜明けから始まり、森や草原を抜け、道に迷い、氷河を通して頂上に達する。雷雨にあいながらも下山し、日没を迎えて曲は終わる、という登山の行程に沿った描写音楽である。

アルプスを扱ったのはシュトラウス一人ではない。アメリカで活躍したジョルジュ・バラティ（ハンガリー1913-1996）には交響曲第1番「アルプス交響曲」があり、ヨアヒム・ラフ（スイス1822-1882）にも交響曲第7番「アルプスにて」がある。また吹奏楽ではあるが、フランコ・チェザリーニ（イタリア1961-）は「アルプスの詩」を書いている。他にも、アントン・ルビンシテイン（ロシア1829-1894）に「アルプス一万尺」の旋律による変奏曲、ヴィルヘルム・キーンツル（オーストリア1857-1941）の歌劇「アルプスの牧歌」、エドゥアルト・シュトラウス（オーストリア1835-1916）の「アルプスの薔薇」、エルンスト・クシェネク（オーストリア1900-1991）の歌曲集「オーストリア・アルプスからの旅日記」などがある。またアルプスの個別の山では、ジェイムズ・スウェアリンゲン（アメリカ1947-）に吹奏楽で「アイガー・頂上への挑戦」がある。

アルプス以外のヨーロッパの山では東欧のカルパティア山脈を対象とした曲が多く、ミロスラフ・スコリーク（ウクライナ1938-）がカルパティア協奏曲を、フェレンツ・ファルカシュ（ハンガリー1905-2000）がカルパティア幻想曲を書いている。さらにカルパティア山脈の一部であるタトラ山脈では、ヴィーチェスラフ・ノヴァーク（チェコ1870-1949）が交響詩「タトラ山にて」を、ヴワディスワフ・ジェレンスキ（ポーランド1837-1921）が序

曲「タトラ山にて」を書いている。またヴォイチェフ・キラール（ポーランド1932-）は、登山を趣味とした作曲家ミェチスワフ・カルウォヴィチ（ポーランド1876-1909）に捧げた、交響詩「コシチェレッツ山1909年」を書いている。コシチェレッツ山(2155m)はタトラ山脈の一峰で、カルウォヴィチが山スキーに出かけ、雪崩に遭遇して亡くなった山である。

カルパティア山脈からは少し外れるが、チェコのプラニーク山(638m)を題材に、レオシュ・ヤナーチェク（チェコ1854-1928）が交響詩「プラニーク山のバラード」を、ベドジフ・スメタナ（チェコ1824-1884）が連作交響詩「わが祖国」で第6曲に「プラニーク」を書いている。またチェコの聖地、プラハ郊外のジープ山(456m)はマルティン・マレク（チェコ1957-）が「ジープ山の37の眺め」を書いている。

ギリシャではハイリヒ・シュッツ（ドイツ1585-1672）の声楽曲「ヘーリコン山での幸せ」のほかに、芸術発祥の地とされるバルナッソス山(2547m)にちなむ曲が数多くある。有名なクロード・ドビュッシー（フランス1862-1918）の組曲「子供の領分」の第1曲である「グラドゥス・アド・バルナッスム博士」をはじめとして、クリストフ・グルック（ドイツ1714-1787）の歌劇「混乱したパルナス山」、ムツィオ・クレメンティ（イタリア1752-1832）のピアノ曲「バルナッソス山への階程」、エステバン・ダサ（スペイン1537頃-1590頃）の「パルナス山と題されたビウエラのための譜本」、ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル（ドイツ1685-1759）のセレナータ「パルナス山の祭典」、ヨハン・カスパール・フェルディナンド・フィッシャー（ボヘミア? 1656-1746）のチェンバロ組曲「音楽のパルナッソス山」、フランソワ・クープラン（フランス1668-1733）のトリオ・ソナタ「パルナッソス山、またはコレリ讃」、カルロス・ハッカルト（オランダ1640-1701）のソナタ集「パルナス山の調和」、オラーツィオ・ヴェッキ（イタリア1550-1605）の「ランフイパルナーソ（パルナッソス山めぐり）」などである。

ほかのヨーロッパの山では、デオダ・ド・セヴラック（フランス1872-1921）による組曲「セルダーニャ（東ピレネー山脈）」、アンドレ・ガオス（スペイン1874-1959）による交響曲第2番「ガリシアの山にて」、ヘルマン・アルバレス・ベイグベデル（スペイン1882-1968）による「カデイスの山脈のロマンス」がある。

「本山寺山森林づくりの会」作業報告

秦 康夫

2013年10月27日(日)9:30~15:30

用具小屋予定地の計測と整備を約1時間全員で実施。昼食後、選木済みの15本を間伐する。急斜面のうえ、掛かり木になりやすい樹木がほとんどで、チェーンブロックを操作したり、ロープを利用したりして苦勞した。

参加者：薦田佳一 斧田一陽 香山博司 宮本廣 須本淳史 倉谷邦雄 中村賢三 福井誠 (計10名)

2013年11月21日(木)9:30~16:00

残る間伐木はいずれも急な斜面にあり、足場の悪いなかでの作業だったが、計23本の間伐と枯れ木等10数本の除伐を行った。調査班のカウントによると、これまでの総間伐数は280本になる。今日の間伐作業の最期の一本が、倒れる方向が少し狂ったため非常に厄介な掛かり木になった。根元を切り落としてチェーンブロックを何度も掛け替え、切り口から約9mも移動させてやっと地面に倒すことができたが、移動させるだけで30分程もかか

った。第5区画の間伐予定木は残すところあと約10本、次回にはなんとか間伐作業を終了させたい。

参加者：斧田一陽 阪下幸一 武田壽夫 薦田佳一 宮本廣 倉谷邦雄 中村賢三 秦康夫 (計8名)

2013年12月15日(日)9:30~14:30

初参加の2人を交え3班に分かれて作業実施。午前、午後あわせて24本の間伐を行い、これで44林班第1~第5区画の間伐作業はすべて終了した。間伐終了面積は約0.5haだが、急斜面が多いので断面積にすればもう少し少ない。作業後、高槻服部の美人湯「祥風苑」で納会を行い、次回からの作業スケジュール等を確認した(須本、黒山以外の9名参加)。来年1月は今後の作業予定地3ヶ所約8.5haの調査と確認、2月は鹿被害観察会と全体会議等を実施し、3月には来年度以降の森林整備予定地の確定作業・選木作業に入る予定。

参加者：金井良碩 斧田一陽 薦田佳一 宮本廣 倉谷邦雄 須本淳史 黒山泰弘 福井誠 秦康夫 杉本佳英 石原順子 (計11名)

2014年4月～6月 支部山行計画

※申込み先は後のリストを参照してください【いずれも締切厳守】

14-1 ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる12

「湖南アルプス 堂山から鎧ダム」

日 時：4月17日(木)

コース：JR石山駅＝羽栗―須賀神社―堂山―鎧ダム
―新オランダ堰堤―迎不動―アルプス登山口
＝JR石山駅

地 図：2.5万分の1「瀬田」

備 考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く
山行でコースを変更する場合があります
歩行距離 約6km 歩行時間 約4時間

申込み：4月7日迄(締切厳守) 久保和恵

―リンジャニ登山―スングイープラヤ

参加費：238,000円(最少催行人数8人)

※燃油サーチャージ、関西国際空港使用料、
海外旅行傷害保険料別途要備 考：バリ島の東隣にあるロンボク島の最高峰で登
山は1156mから始まり、山頂から美しい海と
ロンボク島の緑の大地が広がる絶景が望める。
海外旅行傷害保険への加入必要(申込者にア
ルパインツアーより案内)

申込み・問い合わせ：

アルパインツアーサービス(株)大阪支店

TEL：06-6444-3033

e-mail：osaka@alpine-tour.com

大島、竹中さん

14-2 4000山グランプリ

「火燈山803mから刈安山548m」

日 時：4月19日(土)・20日(日)

コース：福井駅―白山神社―火燈山―劔ヶ岳―刈安山
―芦原温泉駅

地 図：2.5万分の1「丸岡」「越前中川」

備 考：詳しくは担当者に問い合わせてください
難易度の高い山 テント山行 一般参加可
山岳保険加入が必須

申込み：4月10日迄 重廣恒夫

申込み締め切り：4月15日迄

14-6 関西支部県境縦走17

日 時：5月24日(土)・25日(日)

コース：4月までの進捗状況によりコースが決まりま
すHP等で確認してください

備 考：詳しくは申込者に連絡します

申込み：5月10日迄 山内幸子

14-3 関西支部県境縦走16

日 時：4月26日(土)・27日(日)

コース：3月までの進捗状況によりコースが決まりま
すHP等で確認してください

備 考：詳しくは申込者に連絡します

申込み：4月12日迄 山内幸子

14-7 ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる13

「湖北 呉枯ノ峰」

日 時：5月29日(木)

コース：JR木ノ本駅―意富布良神社―上宮―田上城
跡―呉枯ノ峰―菅山寺―坂口バス停＝JR木
ノ本駅

地 図：2.5万分の1「木ノ本」

備 考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く
山行でコースを変更する場合があります
歩行距離 約10km 歩行時間 約4時間30分

申込み：5月20日迄(締切厳守) 久保和恵

14-4 4000山グランプリ

「銚子ヶ峰1014mから願教寺山1691m」

日 時：5月10日(土)・11日(日)

コース：美濃白鳥駅―石徹白―銚子ヶ峰―願教寺山―
野伏ヶ岳―美濃白鳥駅

地 図：2.5万分の1「石徹白」「二ノ峰」「願教寺山」

備 考：詳しくは担当者に問い合わせてください
難易度の高い山 テント山行 一般参加可
山岳保険加入が必須

申込み：4月30日迄 重廣恒夫

14-8 わんぱく探検

「四条畷 むろいけ園地」

日 時：6月1日(日)

集 合：9時20分 JR四条畷駅改札口 コミュニテ
ィバスさつきヶ丘公園行 9時35分発に乗車コース：むろいけ公園緑の文化園下車(10:00)―ハイ
キング―森の宝島(12:00)―昼食―森の宝島
での遊び(13:00～14:50)―コミュニティバス
文化園発(15:06)―JR四条畷駅(15:33)

14-5 海外トレッキング インドネシア

ロンボク島最高峰「リンジャニ山 3726m」

日 時：5月13日(火)～18日(日)

コース：デンパサール―プラヤースンバルン・ラワン

備考：日本山岳会「山の日」の関連行事ですが6月に実施します 親子で、孫と一緒に、お友達も誘ってご参加下さい
ハイキングと遊び(飛行機飛ばしなど)

申込み：5月25日迄 茂木完治

14-9 4000山グランプリ

「順尾山883mから赤堂山1059m」

日時：6月14日(土)・15日(日)

コース：JR金沢駅—刀利ダム—順尾山—大倉山—赤堂山—刀利山—JR福光駅

地図：2.5万分の1「湯湧」「西赤尾」

備考：詳しくは担当者に問い合わせてください
難易度の高い山 テント山行 一般参加可
山岳保険加入が必須

申込み：6月4日迄 重廣恒夫

14-10 ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる14

「能勢 三草山」

日時：6月19日(木)

コース：能勢電山下駅=平野口—慈眼寺—長谷の棚田—ゼフィルスの森—三草山—才の神峠—屏風岩バス停=能勢電日生中央駅

地図：2.5万分の1「妙見」「木津」「武田尾」

備考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く山行でコースを変更する場合があります
歩行距離 約12km 歩行時間 約4時間30分

申込み：6月10日迄(締切厳守) 久保和恵

14-11 関西支部県境縦走18

日時：6月21日(土)・22日(日)

コース：5月までの進捗状況によりコースが決まります

す。HP等で確認してください

備考：詳しくは申込者に連絡します。

申込み：6月9日迄 山内幸子

申込み先一覧

久保和恵 e-mail: unclatorys05-kazu@nifty.com
FAX: 079-565-0530

重廣恒夫 e-mail: shigehiro-ts@asics.co.jp

茂木完治 e-mail: yib03510@nifty.com

TEL: 080-3103-6770

山内幸子 e-mail: sacchyama2f0710@yk2.so-net.ne.jp

ステップアップ登山教室 一般対象 募集中

1stステップ

初級 『地図とコンパスを持って北摂の山を歩く』

4月10日(木) オリエンテーション

安全・快適トレッキング(座学)

5月20日(火)

6月3日(火)

7月8日(火)

中級 『沢歩き』

4月10日(木) 座学

5月29日(木)

6月19日(木)

7月24日(木)

上級 『岩登り・沢の初歩・雪山の初歩』

4月10日(木) 座学

5月22日(木)

6月12日(木)

7月17日(木)

2014年4月～6月 自然保護行事

1 東お多福山ススキ草原復元活動

(1)4月9日(水) 全面刈作業 予備日10日(木)

前号の3月26日(水)が変更になっています。

(2)5月14日(水) 春の植生調査と管理作業

予備日15日(木)

※集合：阪急芦屋川駅 8時50分

2 自然観察会

・6月10日(火)～12日(木)上高地周辺と徳本峠

春の上高地の自然観察 定員10名(先着順締切)

上高地山岳研究所泊 詳細は申込者に別途連絡します

3 日本山岳会関西支部本山寺山の森(本山寺山森林づ

くりの会活動)

(1)4月13日(日)保安林内整備等

(2)4月24日(木)保安林内整備等

(3)5月11日(日)間伐作業 自然観察会

(4)5月22日(木)間伐作業

(5)6月8日(日)保安林内整備等

(6)6月26日(木)保安林内整備等

※集合：JR高槻駅北口アルプラザ前 8時50分

問い合わせ・申込み先

斧田一陽 TEL&FAX 072-633-6556/090-4037-4542

※締め切り：自然観察会を除き、開催日の一週間前まで

ナカニシヤ出版

606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15 (税抜)
TEL 075-723-0111 / FAX 075-723-0095

◎山書版元の主人は語る「登山は文化です」
山の本をつくる
再版!!
A5判 290頁 2800円
中西健夫 著
「山が好き、本が好き」で50年、京都北山からヒマラヤ、アルプスまで、百冊以上の山書を出版した著者が、山の本へのこだわりと山を書く人たちの交流を語る。

◎ピンチをどうやって抜け出すか **8刷出来!**
ロープレスキュー技術
堤 信夫 著
A5判 216頁 2000円
登山家、救助・防災関係者、アウトドア関係者などに必須の技術書。現場で使えるロープテクニクの手順や方法を、図解イラストでわかりやすく解説。



奈良・釈迦ヶ岳

「一等三角点研究會 編著 A5判 260頁 2000円
北海道から沖縄まで五〇〇m以上の全一等三角点について、標高・基準点コード・選点・地形図名・経緯度・所在地と写真を掲載し、会員が実際に辿った出発地から三角点までの登山道を案内。

再版!!

登山案内 一等三角点全国ガイド



高知・鷲尾山

「一等三角点研究會 編著 A5判 212頁 1800円
五〇〇m未満の全一等三角点(429点)を網羅した、全2巻完結編。中高年がトレッキングでも到達できる里山から、岬・無人島、また自衛隊の基地内や学校のほか公共施設、民家の庭先まで、その所在地は多士済々。

新刊

統一 一等三角点全国ガイド

登山案内 ◎五〇〇m未満の全一等三角点を紹介!

関西支部さま県境縦走・瀬戸内海～日本海踏破、おめでとうございます!

新企画! 北極圏屈指のロングトレイルを歩く

グルジアの代表的山群を巡り、主峰を仰ぐ山村で連泊。

北欧、「王様の散歩道」トレッキングと水の都ストックホルム 11日間

出発日～帰着日	旅行代金 (東京発着)
7/ 8(火)～7/18(金)	¥620,000
7/29(火)～8/ 8(金)	¥620,000

※大阪/東京間国内線手配承ります。

全長470kmと、スウェーデン随一のロングトレイルとして名高い「王様の散歩道」のハイライト区間を6泊7日でトレッキング。ロングトレイル倶楽部の新企画です。



▲雄大なU字谷を望むセルカの山小屋

コーカサス山脈 ハイライト・ハイキング 13日間

出発日～帰着日	旅行代金 (大阪発着)
6/29(日)～7/11(金)	¥446,000
7/27(日)～8/ 8(金)	¥478,000
10/5(日)～10/17(金)	¥446,000

世界遺産・上スワネチ地方に聳えるグルジア最高峰シハラをはじめ、怪峰ウシュバや、東部の名峰カズベギなどを仰ぎ見ながらコーカサス山脈の核心部をハイキングします。



▲ウシュグリ村から正面に望むシハラ(5,068m)

—◇お知らせ◇—

「**ロングトレイル倶楽部**」のご案内
世界の名高いトレイルを歩くことにご興味をお持ちの方々のためのお集まりです。「ロングトレイル」の名にふさわしいコースを収録した専用ツアーカタログをご請求ください。

◇—アルパイン・メイト・ポイントのご案内—◇

- 当社海外ツアーにご参加いただくと、旅行代金の1%にあたるポイントが帰国翌日に自動加算されます。
- 貯まったポイントは次回の割引やアウトドアグッズへ交換可能。
- 入会金や年会費、面倒な手続きなどは一切不要です。

「アルパイン・メイト・ポイント」の詳細はお問合せください。



観光庁長官登録旅行業第490号(第1種)/一般社団法人日本旅行業協会正会員 © ボンド保証会員

アルパインツアーサービス株式会社

大阪 06-6444-3033
〒550-0003
大阪市西区京町堀1-4-3 (TCF肥後橋ビル2階)

〈編集後記〉

☆151号より行われた本誌の体裁の変更は好意的に受け止められたようでホッとしている。

☆関西支部創設80周年を迎えるにあたり、支部ルームを大阪駅近くに移し、会員が気軽に利用できるサロンになるよう運用法を検討していると聞く。支部報においても同じように、紙面がサロンとなるような展開を考えている。同好の士が集うきっかけが支部報によっても創られればとの思いからである。会員諸氏のご協力を切にお願いしたい。

(N)

発行日 2014(平成26)年3月10日
発行所 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-4-22
梅田東ビル3階 304号室
公益社団法人 日本山岳会関西支部
e-mail: kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp
郵便振替口座 00930-6-55950
発行者 重廣恒夫
編集 加藤芳樹 野口恒雄 水谷 透
制作 株式会社 双陽社
大阪市北区堂島2-2-28